

令和 6 年度 亀田東児童館事業実施報告書

1 実施した事業

2 自己評価

3 課題と対応

1 健全な遊びを通した児童の集団及び個別指導

① つくってみよう！（創作活動室）

5～6月「ジャンピングUF0」7～8月「牛乳パックでつくるキュービックパズル」
9～10月「紙皿こま」11～12月「しずかなるピロピロ」1～2月「ぐんぐん舞い上がる凧」3月「ぽーんと飛び出て楽しい紙コップ鉄砲」

（自己評価）

今年度より、職員の負担軽減のため「つくってみよう！」工作の提供を2か月に1度、奇数月のみ80～100人参加想定で提供することとした。工作を楽しみにしている子ども達はとても多く、内容のクオリティーは変えず、幼児～小中高生まで誰でも楽しめる工作の提供を続け、子ども達の手先の訓練、ハンドメイドの経験を積む場としていきたい。

昨年度と同様、来館時にいつでも自由に製作が楽しめるよう簡単な工作を提供。創作活動室に全ての材料を準備し、作りたい人が作りたい時に製作出来るように環境を整えた。子ども達それぞれが作り方を見て、読んで、理解し、作って遊ぶことを楽しんでもらえるよう働きかけた。このスタイルはすっかり定着し、先に製作した子が他の子に作り方や遊び方を教えてあげる等、友達同士や異年齢同士で教え合う姿も多く見られる。

今後も子ども達が楽しんでいる様子をヒントに、発想を広げて楽しめる工作を提供していきたいと思う。

（課題と対応）

「つくってみよう！」のコンセプトは身近な材料で作って遊べること。特別な材料でなく、廃材や家でも準備でき、壊れてもすぐに作り直しができるようなものがほとんどだったが、完成後、遊戯室等広い場所で遊ぶのが望ましい「ぐんぐん舞い上がる凧」や「ぽーんと飛び出て楽しい紙コップ鉄砲」等は、館内が混み合っている際には思うように遊ぶことが叶わず、残念そうにしていた子ども達もいた。一斉に作って遊ぶというスタイルではないため仕方がないのだが、遊戯室が空いている時間帯などに遊べるよう今後は配慮していきたい。

② なっちゃんダンス/毎月第2（日）（遊戯室）

（4/14・5/12・6/9・7/14・8/11・9/8・10/13・11/10・12/1・1/12・2/9・3/9）

なっちゃんこと下田奈津美先生は新潟市内の様々な施設でダンス講師として活動されており、先生の抜群のダンスパフォーマンスとご指導を求めて遠方からも多くの参加者がある。また、近隣の参加者らは児童館での出会いをきっかけに親子でダンスを楽しむようになったとの声も多く聞かれている。保護者も巻き込み、幅広い年代と性別、区内外問わず多くの人達が一緒に楽しむことが出来ているのはこのなっちゃんダンスの特徴であり魅力でもあると考えている。

これまで定員を設け要予約としていたが、後期から申込みなしの当日参加可とした。早々に定員に達していても毎回1～2組の無断欠席があった他、ダンス教室と知らずに来館し、参加したいという声も多かったため予約なしの形にした。それによる混乱も特になかったのも、次年度も引き続き予約なしで当日自由参加とする予定である。問い合わせの電話も多く、当日初来館の参加者も後を絶たない。ダンス教室をきっかけに児童館利用につながることを期待したい。「なっちゃんダンス」は下田先生からの了承も得られ、次年度も月1回第2日曜に開催が決定している。

また、12月にはなっちゃんダンスとクリスマスを合体させた「なっちゃんダンス de クリスマス」を開催。クリスマスソングを下田先生オリジナルの振付で楽しく踊るという会を、幼児親子向けと小学生向けの2回行った。幼児には親子の触れ合いが組み込まれた振付。小学生向けにはじゃんけん遊びなどの要素を織り交ぜた振付で、子どもも大人も終始笑顔が弾け大いに盛り上がった。なお、「なっちゃんダンス de クリスマス」には地域のサンタクロースさんから子ども達に心温まるプレゼントが配られた。児童館が地域に愛され、地域に育てていただいていたからこそと思う。感謝の一言に尽きる。

③夏休みお楽しみ会 妖怪現る！？（遊戯室）

（8/4）

昨年映画上映の代替案として行った妖怪まつり。急遽企画した催しが思いの外大好評であったこともあり今年度も実施した。開催当日に向け、職員が描いたオリジナルの妖怪ぬりえは子ども達に大人気で、館内至る所に子ども達が塗った妖怪達が貼りめぐらされた。「こんなにたくさん貼ったら妖怪が釣られて来るかもね」等と子ども達にじわりじわりと予告をし、ピア万代で行われていた妖怪まつりの妖怪たちが児童館に迷い込んできたといった設定で今年も開催。「本当に来るの？」「どうせ偽物でしょ？」「怖くないし！」等々子ども達の反応は様々だったが、当日は多くの来館者がまつりに参加した。遊戯室からプロの楽師による怪し気なインド音楽に導かれるように来館者が次々遊戯室に吸い込まれ、語り部による怪談噺、その後妖怪達が次々登場し、子ども達の周りを縦横無尽に徘徊すると、歓声と泣き声が沸き起こっていた。妖怪達に混じってインド舞踏家も登場。息を呑む美しさに参加者はうっとりとして見入っていた。妖怪の面々は劇団に所属し俳優として活動をしている方々。また、楽師、語り部、インド舞踏家はプロの方々に、今回もボランティアとして喜んで参加して下さった。参加した子ども達らは生のインド音楽や舞踏を間近で鑑賞できる貴重な体験を得られたのではないかなと思う。楽師の中には外国人の方々も含まれており、英語の勉強をしている小学生らとの交流もあった。多くの方々のご厚意により今年も実現できたことに心から感謝している。

④ぬりえ教室・ぬりえコンクール（創作活動室）

（ぬりえ教室 毎月第一月曜日 15時30分～・ぬりえコンクール 7/18～8/28）

（自己評価）

児童館だよりに「アトリエじどうかん」と書かれていても何をするのか分かりづらいとの声を受け、名称を「ぬりえ教室」とストレートにした。それにより小学生がまず分かるようになり参加数も増加。毎回安定的な人数が参加している。ぬりえコンクールに至ってはひまわりクラブが大半を占めていたが、一般来館による参加者が増加し、指導

ボランティアの中井瑞貴先生に審査をしていただく時間も長くなった。ぬりえの原本は全て中井先生のオリジナルで、先生が塗ったお手本と題材を毎回2～3種類用意していただき、子ども達には自由に選択。中井先生の指導のもと、子ども達は水性色鉛筆の色の広がりやコーヒーを使用した陰影の付け方を楽しんでいる。中井先生の繊細で見事なお手本をコレクションしている小学生もいる程で、子ども達の期待度、関心度の高さが伺える。

また、今年度は7～8月にぬりえコンクールを開催。審査結果が気になる子や展示された他の子ども達のぬりえも含め観覧に来られる子ども達も多かった。普段あまり来館しない子がぬりえコンクールにだけは欠かさずに参加し、結果を一人で見に来たり、家族で見に来たり等々、一喜一憂する様子は今年も多く見られた。また、中井先生の講評もととても分かりやすく丁寧で、子ども達への愛が感じられる温かい文章が添えられていた。コンクールには児童館利用者、亀田東ひまわりクラブ第一～四までの子ども達に参加してもらい、どの子達からも期待度の高さが伺えた。ぬりえの題材は中井先生が描かれたオリジナルに特化。中井先生のぬりえは動物や食べ物、見覚えのある地域の風景や乗り物等が人気で、これまでの作品の中から幅広い学年・年齢の子ども達が取り組みやすい作品をチョイスして課題とした。市販されているお馴染みのキャラクター等のぬりえよりも線画が非常に細かく、子ども達は自然と細かいところまで集中して丁寧に塗り、色選びにこだわりも見られる程である。

(課題と対応)

ぬりえ教室、コンクール共に利用者からの期待度が大いに高いものであるため、次年度以降も継続して開催していく。ぬりえコンクールに関しては、来年度も中井先生のオリジナルのぬりえに特化し、亀田東児童館の独自性を持たせながら年開催していく。また、ぬりえ教室の日に早帰りで遊びに来ていた中学生女子らが中井先生の作品に興味を持ち教室に参加。新年度から部活動が地域移行になることも視野に入れ、中学生も参加できるよう、また、ひまわりクラブが遊戯室利用の後に教室に参加することから、開催時間を16時～17時とした。

⑤ サッカー教室・サッカー大会(遊戯室)

(サッカー教室 毎月第1・3水曜日 15時30分～、サッカー大会 3/19)

(自己評価)

昨年度同様、前半30分を1、2年生、後半30分を3、4年生とし、学年それぞれのレベルに合わせた内容で安達監督にご指導いただいた。昨年までの参加者の中には、サッカー熱が強すぎる余り、心無いヤジを飛ばしたり、監督の指示に従わなかったりといった男子が数名いたが、学年が上がったことや興味が他に向いたのか、彼らの参加はなくなり、今年度は他校区や女子を含む新たな顔ぶれが毎回参加するようになった。性別問わず初心者や経験者も関係なく、参加した子ども達皆が和気藹々と楽しむことが出来た。児童館のサッカー教室をきっかけに民間のサッカークラブに入る子ども達も多く、児童館がサッカーとの出会いになっている子も少なくない。あくまで初心者のため、サッカーを楽しむための教室であることを今後も強調していきたいと思う。1年間教室に参加していた子ども達は、月2回の参加を地道に続けたことにより、体力も付き、「自分が自分が…」といった動きから、チームとしてボールを回せるようになっており、成

長を感じるばかりだった。また、1年間の練習の集大成となるサッカー大会。小学1～3年生の部、4年生の部に分かれてそれぞれ試合を行い、参加した子ども達は練習の成果が十分に発揮出来ていたと思う。性別や校区の垣根を越えて参加する子が多く、大会の効果、関心度の高さが伺える。次年度小学校に入学する子ども達の保護者からもサッカー教室への問い合わせも来ており、今後も安達監督のご指導のもと教室・大会共に継続して実施していきたい。

(課題と対応)

監督の体調不良により2月の教室をお休みすることとなった。しかし、大会前ということで参加者も多く、急な中止とはせず、それまで監督が指導カリキュラムとして行っていた内容で職員が回すことにした。日頃の教室での指導内容や子ども達の様子を記録として残していたことで出来た措置であったので、今後も職員は教室に立ち合い、共に練習を体験しながら学んでいく。

⑥ 囲碁・将棋きょうしつ（毎月第2水曜日 16時～）

(自己評価)

利用者からの将棋教室もやってほしいとの声を受け、指導ボランティアの太野垣先生にお願いをし、囲碁と将棋を同時進行で行うこととした。それによって他校区からの参加者や将棋好きな子ども達の参加が毎回あるようになった。また、囲碁きょうしつに関しては「囲碁は知らない、難しい、地味」等といった声も一時期は聞かれたが、参加した低学年の子ども達から「やってみたら面白い」との声が増え、ひまわりクラブから囲碁に興味を示した男子達が真剣に打つ姿を見た周囲が、我も我もと始めたことがきっかけで、現在は参加人数も安定している。

(課題と対応)

水曜日は小学校が早帰りで館内が混み合うため、4時から1時間創作活動室が利用できなくなることで、遊戯室以外でおもちゃで遊びたい子ども達の居場所が図書コーナーと遊戯室のみとなってしまう。混雑時の子どもの居場所確保に苦慮することもあるが、遊戯室利用が終わると順次帰って行く子ども達も多いため、大きな混乱はない。また、創作活動室に設置してあるぬりえや折り紙、パズル等は図書コーナーに移動してもらい、「つくってみよう！」は教室開催中はお休みとしている。

⑦ 卓球きょうしつ（毎月第4水曜日 16時～）

(自己評価)

低学年と他校区の子ども達が卓球に興味を示し、多くの参加者が集うようになってきている。以前は「卓球を知らない＝つまらない」といった決めつけが聞かれることもあったが、楽しくやっている姿や上手な人の姿を見て「やってみたい」に変わることもあり、そうしたところから参加者が安定的に増加していったのではないと思う。参加している子ども達は月1回ながら地道に腕を上げ、いつの間にラリーができるようになる子も少なくない。

(課題と対応)

卓球台2台に子ども達が8人以上といったことも多々あるので、太野垣さん一人では手が回らないことが多い。毎回職員1名が付いて補助をし、太野垣さんの指導カリキュ

ラムに則って同じメニューを行う。卓球人口が多い江南区であることも踏まえ、周知につながる働きかけや工夫を今後も行う。

⑧ その他各種イベント

・アニバーサリー祭り（5/19）・児童福祉週間こいのぼり製作、ぬりえ・親子DE ドッジ（6/16）・エネルギーふれあい広場（7/27）・GOGO スタディー（7/30、7/31、8/22、23、12/23、24）・七夕工作・ハロウィンウィーク（10/25～31）・音楽会（11/10）

（自己評価）

今年度も利用者に喜んでもらえるイベントを多く提供し、予算と労力、児童館の楽しさを大いに還元することが出来た。昨年まで春と秋に開催していた2つのお祭り（アニバーサリー祭り・ハロウィンパーティー）は、より多くの子ども達に楽しんでもらえるよう、ハロウィンパーティーは「ハロウィンウィーク」とし、10月25日～31日の間先着100名の子ども達に「トリックオアトリート」の合言葉でささやかなお菓子をプレゼントする形にした。祭りは一度に多数の利用者に楽しんでもらえるが、意外にも毎日遊びに来ているにもかかわらず予約できなかったという子ども達が多かった。そのため試験的にハロウィンウィークのスタイルにしてみたところ、参加者は計768名と予想を遙かに超える参加者で賑わった。しかし、そのため連日館内がごった返し、入退館時のスペースさえも確保できないことがあったり、おもちゃの貸出が容易にできなかったりしたため、次年度は3日間の「ハロウィンデイズ」とすることとした。日々交代で運営の手伝いをしてくれたこどもクラブのメンバーからは「祭りの方がいい」という声も聞かれた。祭りとデイズ及びウィークの形を順番に行うなど、ハロウィンイベントを継続しながらもマンネリ化しないように企画をしていきたい。

11月の音楽会は、これまでの利用者の演奏発表とアトラクション演奏のスタイルから、演奏を聴く形のみにした。演奏は亀田東小校区にある新潟明訓高校の吹奏楽部をお願いし、来館者全員が気軽に参加できる楽しい演奏会となった。楽曲のほとんどが子ども達の知っている人気曲で、会場は大いに盛り上がっていた。高校生らにとっても演奏できる場が増えることはとても有難いとのこと。近隣の学校であることも踏まえ、今後も音楽を通じて交流ができると良い。その他、GOGO スタディーなど子ども達の様々な能力、やる気を引き出すもの、エネルギーふれあい広場のような新たな興味関心を引き出すものなど、多岐に渡るイベントを開催し、子ども達の情操教育の一端を担うことが出来た。今後も利用者の声、ニーズに高くアンテナを張り、利用者の求めるものを利用者と共に実現していきたい。

（課題と対応）

今年度の音楽会は鑑賞会としたが、毎年発表会に出演するのを楽しみにしていた子どもや親御さんもおり、鑑賞会も音楽会もどちらもやれるといいのでは？といった声が聞かれた。音楽発表会に関しては音楽に精通している職員が1人しかいないため、その負担を考え鑑賞会としたという経緯があったが、次年度は利用者からの声に応え開催できるよう職員間で十分に話し合いを行っていききたい。

⑨ 移動児童館

(5/20、6/5、7/25・26・29、8/20・26、10/21・26・28、11/18、12/25、3/7)

(自己評価)

今年度も例年通り年度初めに江南区内全ひまわりクラブに向けて移動児童館の希望の有無、希望日程、希望内容等の調査・調整を行い、実施した。希望調査においては、10クラブから希望があり、希望しないが1クラブ。返答なしが4クラブあった。コロナ禍の影響で昨年度まで開催を自粛していたクラブからの依頼もあったので、今後も希望が増加していくよう声掛けをしていきたい。ひまわりクラブの他には、早通小学校、横越地区公民館、亀田第三保育園からの依頼があった。早通小学校では、PTA 役員の方々に予めカプラ制作のお手伝いしてもらい、カプラの楽しさを知ってもらう機会にもなった。また、早通小からは年度内に次年度の希望が早々と来ており、移動児童館への期待度が伺える。横越地区公民館は「こどものあそび場」夏・冬2回の開催に参加。それぞれ集団遊びを提供し、参加した子ども達は大いに楽しんでいた。横越地区公民館からも既に次年度の希望も来ており、日程調整が始まっている。亀田地区公民館をはじめとする他の公民館へのアプローチも行い、児童館の機能移転がさらなる拡大を目指したい。3月には亀田第三保育園へカプラ教室として移動児童館を行った。コロナ禍を挟んで久しぶりの保育園へ移動児童館だったが、次年度は近隣の3園に向けての希望調査も行い、保育園への遊びの提供もしていきたい。移動児童館ではカプラや集団遊びが人気であり、それぞれ年度内に法人内で開催された研修で学んだ内容に基づき、昨年度からさらに進化したものを提供しよう心掛けた。児童館の機能移転に柔軟に対応するために、今後も研鑽を積んでいきたい。

(課題と対応)

運営協議会において、亀田東小学校おおぞら組においてカプラ教室をコロナ禍前まで行っていたことを校長先生にお話ししたところ大変興味を持ってくださり、早速担任に話しを通していただいた。程なくして、4月中におおぞら組へのカプラ教室が決定の運びとなった。コロナ禍前とは小学校、公民館それぞれの職員の顔ぶれも変わっており、前に戻るのではなく、新たに企画を立ち上げるつもりでアプローチしていきたいと考えている。児童館のない地域では「児童館って何？」との質問が投げかけられることもある。児童館の機能移転を行い、児童館の事業をより幅広く拡大していけるよう館外にも広く目を向けていきたい。

2 中学生・高校生等の年長児童の自主的な活動に対する支援

(自己評価)

小学生の頃に児童館をよく利用していた中学生らが、土日祝日だけでなく、平日も遊びに来てくれるようになった。部活動の地域移行に向けて中学生の居場所確保を今後の課題としていたこともあり、冬季より17時30分～閉館までは中高生が優先的に遊戯室を利用できるようにした。それにより、その時間を目掛けて来る中高生や時間になるまで宿題等をして過ごす子らもちろほら出てきた。また、吹奏楽部に所属する中学生が管楽器の練習のため遊戯室を利用することもあり、遊戯室利用の多様化も感じられた。

(課題と対応)

限られた時間の中で来館してくれた時に有意義に過ごせるよう、遊戯室利用への配慮

やいつでも話し相手になれるよう職員がゆとりを持って接し、部活動の地域移行を受けて中学生らの放課後や休日の受け皿となれるよう、「児童館もある」ということを周知し、受け入れ態勢を整えていく。インスタグラム開設により、中高生らも児童館情報をより得やすいものとなるよう発信していきたい。また、試験前の一定期間、地域ボランティアや学生ボランティアの協力のもと、中学生向けの学習支援も行っていく。

① 中高生遊戯室タイム

(土日祝日 17時～17時50分・平日17時30分～17時50分優先)

(自己評価)

土日祝日17時～17時50分の「中高生遊戯室タイム」は引き続き実施しており、さらに平日17時30分～17時50分は中高生が優先的に利用できることとした。平日についてはお迎えのない小学生の利用が冬季間はないため、2月より実施したところ、雪解けに合わせて中学生が利用するようになってきた。春以降も優先時間として利用可能であることを伝えると「友達にも伝える」といった声も聞かれた。

亀田東小6年生(新中学1年生)向けに放課後の過ごし方についてアンケートを実施(91人が回答)したところ、「放課後は家で過ごす」「習いごとに行く」「友達と過ごす」がそれぞれ60人程度おり、「児童館で過ごす」も15人の回答があった。「友達と過ごす」子ども達の選択肢に児童館も含まれてくると予想されるので、平日の遊戯室利用が円滑にできるよう定着させていきたい。

(課題と対応)

亀田中学校には現在ポスターを掲示しているが、平日に優先時間が増えたことや他校区の小学生らの来館も多いため、亀田、亀田西、大江山中学校にもポスター掲示をお願いし、スポーツ・音楽・ダンス等の練習にも役立ててもらえるよう、周知を図っていく。中高生が児童館に足を運ぶきっかけに最もなりやすい事業であると考えているが、中高生にとっての児童館のニーズはどこにあるのか今後も深く調査していきたい。

3 子ども会等の地域組織活動の育成助長及び指導者の養成

① こども会議(創作活動室)

(毎月第2土曜日9時15分～)

(自己評価)

今年度は、4年生6名、5年生9名、6年生2名の計17名で1年間活動を行った。亀田小、亀田西小や山潟小等、他校区からの参加も増え、こどもクラブ発足後最多の人数となった。初日こそ緊張して輪に入りづらそうにしていた4年生女兒も、1時間後にはすっかり馴染み、むしろ積極的に発言をする側になっていた程だった。

今年度も各イベントにおいて皆大活躍で、より良い運営方法についての提案がある等頼もしい限りだった。また、職員の手が行き届かないところには頼まなくて縦の関係がとてもうまく機能しており、上学年の子が下の学年の子にやさしくフォローする姿は随所で見られた他、1人1人が与えられた仕事を責任持ってよく頑張っていた姿も多く見られた。イベント後の振り返りで出た感想や反省では、職員の日線ではわからなかったことへの気付きもあり、そうしたことはイベント運営の大きな戦力となっている。

昨年度は集団を乱す行動が目についていた5年生男子も、徐々にイベントを盛り立て

るためにはどうしたら良いのか意見を出してくれるようになり、他の子ども達とも協力し合いながら盛り上げてくれ、とても頼もしかった。

2月の大雪により、3月の「ありがとう会」（クラブを卒業する6年生男女2名に向けて）の企画を行う予定であったが、プランそのものは職員が立て、当日子ども達が特にやりたかった遊びを中心に皆で楽しい時間を過ごした。下学年の子ども達からは「3年間こどもクラブを引っ張ってくれてありがとうございました」といった感謝の言葉が聞かれ、6年生からは「これからはみんなで先生たちを助けて頑張っているって行ってください」と嬉しい言葉が聞かれた。

こどもクラブの活動を通して、学校や学年を超えて打ち解け、絆を深めてきた。何よりもこどもクラブメンバー自身がイベントを楽しみながら活動し、仲間と協力すること、意見を出し合い、落としどころを見つけること等、様々なことを学びながら一人一人が成長することが出来た。一人一人の意外や一面やキラリと輝く姿を沢山見る事が出来て私達もとても嬉しかった。今年度のどの事業もこどもクラブメンバーの存在なくしては成功はあり得なかった。亀田東児童館にとって唯一無二、なくてはならない存在であるこどもクラブ。子ども達の自信にも繋がる子の活動は今後も大切にしていきたい。

（課題と対応）

こどもクラブの活動やこども会議の内容、イベントの日程等が保護者に上手く伝わり切っていないことで活動を欠席してしまうことが間々ある。保護者にもこどもクラブが一体どんなことをしているのか知ってもらえるよう活動の様子を見てもらうのはどうかとクラブメンバーに提案すると、「参観日みたいで嫌だ」と却下される反面、「こども会議を見てもらえれば活動内容が分かると思う」という素晴らしい意見ももらえた。子どもの柔軟な発想に改めて学ばせてもらった思いだった。これまで保護者へのこどもクラブの活動内容、子ども達の様子を詳しく知らせることはしていなかった。しかし活動内容や様子を知り、保護者もより関心や自覚を持ててもらえると、よりクラブ活動が円滑に行えると考えられる。活動の周知の一環の足掛かりとして、今年度11月「音楽会」後にクラブメンバーの活動写真を保護者に配布した。次年度以降は、クラブメンバーの保護者へのお知らせにも力を入れていきたい。

次年度は、既存メンバー10名に加え、亀田東小、亀田西小、亀田小学校それぞれから新メンバー7名が仲間入りし、17名で始動する。他校区からの参加も多くなるため、保護者連絡や子ども達への小まめな声掛けを徹底していきたい。

4 子育て家庭の支援

① ひよこ広場（毎月第2、4木曜日10時30分～）

第2木曜…誕生日会・第4木曜…リトミック

（自己評価）

昨年度までひよこ広場の開催は水曜日だったが、支援センター等の施設とイベントがかぶり参加人数が伸び悩んでいたため、今年度より、館内点検日の第1木曜を除く第2、第3、第4木曜日の同時間に行うこととした。第2は誕生会、第3は地域ボランティアさんによる絵本の読み聞かせ～職員により親子ふれあい遊び、第4はリトミックを提供。利用者からのリクエストにより始めた誕生日会とアンケートでの希望が多かったリトミックについては徐々に周知され、年度後半頃から人数が安定してきていた。しかし、

読み聞かせに関してはボランティアさんがご高齢のためかお休みがちとなったため、後期より第3週の開催を見送ることとし、第3週ひよこ広場開催に代わり、ひよこルームでの職員による絵本の読み聞かせを不定期で行うこととした。

支援センターや他の児童館等の誕生日会を梯子している乳幼児親子は多い。亀田東では、親子ふれあい遊び「たんじょうびケーキをつくりましょう」で遊んだ後、パースデーパネルシアターへのデコレーションを行う。これが大人気で、毎月参加している子ども達はイチゴのパネル人形をもらうと一目散に駆けていき、嬉しそうにパネルに貼っている。また、主役の誕生児は職員手作りのフェルト製の可愛い冠をかぶり、誕生日会専用の撮影コーナーで記念写真を撮っていく親子も多い。誕生会ならではの内容なので、今後も多くの親子に参加してほしいと思う。一方リトミックについては、有資格者である職員が毎月担当。わらべうたを織り込んだリズム遊びやステップ、季節感のある工作や絵本、パネルシアター等を提供している。工作については、家庭でも気軽に作れる「台所にある材料」等を主に利用し、乳幼児の成長に合わせて出来る作業を必ず織り込んでいる。また、子どもの成長に沿った活動を行うために月齢を区切って行っている施設が多い中、自由来館である児童館は月齢を区切らず、気軽に参加できるよう、その日の参加者の月齢に合わせた活動を行っている。そうした配慮もあってか、「他施設では参加ができなくなった」「もっと早く児童館のリトミックに参加すれば良かった」「月1でなくもっとやってほしい」等々の有難い声をいただいている。これに甘んじることなく、マンネリ化しないように研鑽を続けていきたい。

(課題と対応)

4月入園により年度替わりの参加者減少は否めないが、おひるねアート等の人気イベントやBP講座に参加したことがきっかけで児童館利用を始めるケースも多く、日頃の声掛けやPR、関わりが非常に大切である。また、インスタグラムの影響も大きく、2月開設以降「インスタを見て来ました」という声も聞かれるので、日々の様子や定例イベントの様子等をしっかりと発信していきたい。

② 育児イベント（毎月1回）

・おひるね&おすわりアート（4/22, 7/2, 10/1, 12/9）・保育コンシェルジュさんに聞いてみよう「途中入園の話」（6/14）・保育コンシェルジュさんに聞いてみよう「4月入園のお話」（8/30）・ベビーヨガ（9/20）・ひよこ運動会（11/8）・クリスマスコンサート（12/4）・ひなまつりコンサート（3/3）・ベビーリトミック（3/25）

（自己評価）

人気イベントは引き続き継続し、いずれも好評のうちに終わることが出来た。おひるね&おすわりアート全4回・ベビーマッサージ・保育コンシェルジュによる途中入園のはなし・同4月入園のはなし・ベビーヨガ・運動会・クリスマスコンサート・ひなまつりコンサートは今年度も開催した。今年度はさらに、新たな試みとしてBP講座を修了した乳児親子と3～7か月の乳児親子を対象としたベビーリトミックを開催した。また、これまで講師を招いて行っていたリトミックについては、有資格者の職員が定例行事として毎月行うことにした。江南区の保育コンシェルジュさんからの入園の話には母親だけでなく父親の参加もあり、より具体的でわかりやすい話を聞くことができ大変に喜ばれた。ひなまつりコンサートは今年度も職員の人脈を利用し、フルートとピアノ

の生演奏や乳幼児親子向けのパネルシアターや絵本の歌い聞かせ等を親子で楽しむことができた。子連れで生演奏を聴けるチャンスがなかなかない母親たちにとって、児童館で体感できたことがとても嬉しかったとの声が多く聞かれた。

今年度も様々なイベントを通して親子を様々な面から支援することが出来た。次年度以降も新たなニーズも探りながら、継続して親子共々笑顔になれるものを提供していきたい。

（課題と対応）

次年度もＢＰプログラムと連動させてイベントを開催し、ＢＰプログラム参加者が講座終了後も継続して児童館を利用出来るような展開を目指す。ベビーリトミックからひよこ広場や各種育児イベントへつなぐだけでなく、日頃の来館時にも気軽に絵本の読み聞かせやふれあい遊びを提供する等して、児童館で過ごす時間が親子にとって楽しいものであるようにさらに整えていく。そのために職員が研鑽を積んでいくことも大切であると考えます。

「おひるね&おすわりアート撮影会」は、特に「おすわり」が大人気で、予約開始から数時間で〆切となることも少なくない。電話が繋がらないため直接申し込みに来る利用者も多く、予約開始日は勤務体制を厚くし対応している。一方、「おひるね」はＢＰ講座を修了した親子には先行予約を可能とし、ほとんどがロコミで埋まるといった状況。年度末のＢＰ講座に参加した乳児が翌月の撮影会から１年を通して参加するケースが多く、撮影会がきっかけで母親同士の交流が生まれたり、他の育児イベントやひよこ広場に参加するといった良い流れができています。また、告知は児童館だよりと館内掲示のみとすることで、普段児童館を利用してくれている親子らも参加できるようになった。

春入園後は利用者層が入替わりにより児童館周知がなかなか難しく、秋頃から徐々に定着していく状況は変わらない。次年度以降も１人でも多くの利用者を楽しんでもらえるよう、利用者の声を第一に館内の遊具等を整え、より参加しやすいイベント、興味を持ってもらえる内容のイベントを提供していきたい。

また、土日に父親も巻き込んだイベントの開催を望む声もあり、昨年度開催した「足母親は普段から支援センターや児童館で情報共有をしたり、母親同士で話をする場があるが、父親にはそのような機会がそもそも少なく、平日のイベントでは父親が参加しにくいとのことであった。これまで休日に父親対象の幼児親子イベントを企画しても参加者が集まらず、開催に至ることが出来なかった。しかし最近では父親だけで子どもを連れて来館する方も多く、父親が主体的に育児に参加している姿が多く見られ、意識の変化を感じている。そこで２月の土曜日に「パパママセミナー」として「足育講座」を開催した。普段のイベントも父親の参加を可能としているが、実際にイベント名に「パパ」と名前が付くだけで参加に対するハードルが下がったのか、平日のイベントより父親達の参加が多くあった。この実績を生かし、次年度以降はより父親が育児に積極的になり、夫婦で共に足並みを揃えて育児をしていけるような講座やイベントを定期的で開催していきたい。

③ ＢＰプログラム“赤ちゃんがきた！”親子の絆づくりプログラム 第１クール ６／４・１１・１８・２５…開催可能人数に達せず

第2クール 9/3・10・17・24…7組

第3クール 11/26・12/3・10・17…4組

※B P要素を組み込んだ育児イベントとして実施

第4クール 2/25・3/4・11・18…3組

※B P要素を組み込んだ育児イベントとして実施

(自己評価)

B P講座は第一子の育児をする母親のための「仲間づくり・親子の絆づくり・少し先を見通した育児の知識の学習」を目的とするプログラムであり、自主事業として立ち上げ4年目を迎えた。昨年度は全4クール全て開催することが出来たが、今年度は第2クールのみが講座に必要な組数での開催だった。第1クールの希望は1組のみで開催には至らず、第3、4クールも講座開催に必要な5組まで集まらなかったため、B P要素を組み込んだ育児イベントとして開催した。どの回も参加した母親らは初回から打ち解けて話が弾み、第2クールはグループとしての成長も回を重ねるごとに見られた。第3、4クールは人数こそ少なかったが、いずれも初回から母親達が自然に他の親子と関わり、講座終了後も情報交換をするなどして交流が見られ、再会の際には、それぞれの子の成長を喜び合う姿が見られた。講座として成り立たなかったものの、母親達自身で結束力を以て成長し、いずれも本来のB Pプログラムの在り方に沿っていたのではないかなと思う。各回ともに最終回にアンケートを実施しているが、概ね高評価をいただっており、初めての出産、育児で大きな不安の中、プログラムに参加したことでかけがえのない同志を得られたことを心から喜んでいた。このプログラムに参加したことで不安や孤独から解消され、前向きになっている姿が印象的である。

親子が安心して児童館の講座に参加し、終了後も児童館を利用したいと思ってもらえるような雰囲気作りや、児童館の紹介を欠かさず行っていきたい。さらに第4クールで行った有資格者である職員による「ベビーリトミック」が好評であったことを受け、新年度もB Pプログラム終了後の翌週に開催し、母親同士の交流の手助けや、第2子以降の3～7か月親子の参加も募ることにより、より広い視野で母親同士の交流に繋ぐようにしていきたい。また、プログラム参加者以外に来館した利用者にも不便や迷惑を感じさせないように、環境設定の配慮を継続していく。

今後も行政への協力も引き続きお願いし、新生児訪問や産後ケア施設利用時における助産師からの紹介の他、江南区内の産婦人科、小児科にチラシを設置してもらい、多くの参加につながるようにしていきたい。

(課題と対応)

昨年度より区報掲載依頼を所管課を通さず直接行うため、年4回の初稿日を忘れず行っていく。このプログラムは初めての育児に直面している母親達を支えるものである。公民館事業として各区で「ゆりかご学級」が通年開催されているが、新潟市は「ゆりかご学級」に一本化。B Pプログラムとゆりかご学級は似て非なるものであり、それぞれの特徴を生かしたプログラム構成となっている。B Pプログラムは「第一子」の親子に限定し、同じ立場、境遇に立つ母親同士が集い、育児の楽しさ、困難さを同じ目線で共有できることが最大の利点である。さらには各クール毎回同じファシリテータのもとでプログラムが進行するため、親子の成長、問題にも気づきやすい。B Pプログラム参加

者の中にはゆりかご学級にも併せて参加している方が少なくない。育児に困っている母親達の受け皿が区内に多くあることは、日々奮闘している母親達の心の拠り所となる。母親達を支える一つの機能として、亀田東児童館は今後も自主事業として次年度もB P プログラムを継続していくこととしている。

5 その他地域の児童の健全育成に必要な活動

亀田東児童館運営協議会は、運営協議会会長（亀田東小コーディネーター兼民生員）、亀田東小学校長、亀田中学校長、亀田東小学校区コミュニティ協議会代表、江南区社会福祉協議会、指導保育士、保護司、学識経験者、主任児童委員、亀田東小PTA副会長を委員として迎え、計10名の委員の方々と共に児童館の運営に関して協議を重ねた。第29回を6月25日（火）に開催し、令和5年度の収支報告、令和6年2月～5月までの利用者推移と活動報告、今年度の活動予定について報告し、委員の方々からご意見を頂いた。第30回は2月18日（火）に開催。令和6年6月～令和7年1月までの利用者推移と活動報告、令和7年度の活動計画を報告した。委員の方々からは温かい励みになる言葉や協力的な姿勢をいただけて本当にありがたいばかり。今後もいただいた意見をより良い児童館運営に反映させていきたい。

また、コロナ禍により休止となっていた亀田東小学校特別支援学級への移動児童館について再開の提案をさせていただいたことにより、R7年4月26日（土）学校授業参観においてカプラ教室を行うこととなった。指導保育士からの保育園への移動児童館についても、運営協議会にてご意見をいただいたことによりR6年3月に再開することができた。いずれもコロナ禍以後の再開が叶ったことは運営協議会において行われた意見交換あつてのことと思う。

さらに、今年度も運営協議会だけでなく、亀田東小、亀田小、民生員等の地域の関係機関と深く子ども達の様子や情報を共有し連携を取ることが出来た。地域の子どもの健全育成を担う機能として、地域の各関係機関と今後もより密に連携を取り、地域で親子、子どもたちの成長を見守る体制作りを行っていきたい。

総括・評価

昨年度との違いは来館者数が大幅に増加したことである。昨年同様、亀田東小学校の他、江南区内の各小学校や、他区からの小学生の利用が確実に増え、保護者の送迎が可能な子ども達は定例行事へも積極的に参加しており、東小学校の子ども達とも仲良くなっている。さらに、休日には乳幼児親子の来館が時間帯関係なく増加しており、駐車場で開館を待つ親子も少なくない。休日の午前中のほとんどが乳幼児親子、乳幼児と小学生のきょうだい親子で、小中学生の来館は比較的少な目。遊戯室を家族単位で半面ずつ予約するケースが多くなっている。午後は小中学生が一斉に来館し、閉館まで館内は終始に賑わっている。

また、今年度も日々の利用者との関わり、各種イベント、講座、定例行事を通して最大限に利用者に児童館の楽しさ、機能を還元し、子ども達の健全育成、親子を支える取り組みを行う事が出来た。より良い児童館運営、健全育成のため、昨年課題として挙げていた「各関係機関との情報交換・連携、それに伴う職員間の情報共有」については、亀田東小学校とひまわりクラブとの情報交換会や児童館運営協議会で、特別な配慮や支

援、見守りが必要な子どもに関する情報を共有する機会を得ることができた。今後も日々の職員間の報連相を密に取り、より正確な情報を基に関係機関との連携を深めていく。

来館者からは様々な要望も挙がっているが、昨年度からおよそ1万人増加しており、日々来館の現状と折り合わせると、幅広い年齢層からの全ての要望を網羅するのは難しい。また、そのための職員配置も今年度は難しい場面が多くあったが、寄せられた要望から実現したイベントもある。来年度も寄せられた要望に対して、職員間で共有し、可能な限り提供ができるようにしていきたい。

R7年度より、中学校の部活動が地域移行されることを受け、中高生の居場所として児童館が果たせることとは何かを繰り返し協議し、平日17時30分～閉館までの遊戯室を中高生優先とすることや、試験前などには創作活動室を学習室として中高生が優先的に利用できるようにした。それにより普段から中学生の利用が増加傾向にある。0～18歳の子ども達が満遍なく児童館を有効利用できるように柔軟に対応していきたい。

児童館は、地域の中の子ども、親子を見守り、居場所としての拠点となるべき場所である。亀田東児童館は江南区唯一の児童館ではあるが、広い区内ではまだまだ児童館そのものが知られていない。他校区からは児童館のような子どもの居場所を求めている話も聞く。横越地区公民館とは共同で子ども達の居場所事業を継続している。「児童館がなくなったら困る」「児童館があって本当に良かった」といった利用者からのリアルな声も日々聞かれる。児童館自体が淘汰されていこうとしている中、公民館やコミュニティーセンター等で地域と協力しながら、移動児童館として児童館の機能を移転することは可能だと考えている。学童クラブの需要がより高まっている中、学童クラブの範囲からは外れる幅広い子ども達の受け皿としての児童館の存在価値を高めるには、外部に出て行くことが必要だと考えている。

これからも地域で一体となって保護者も含めた親子を支える体制を作り、子ども達の成長を長く見守っていききたいと考えている。